

小～中規模噴火のハザードマップ(積雪期)

このハザードマップは噴火警報(噴火警戒レベル4・5) ※積雪期に相当します。

記号の色と意味

- 火山ガス** 高濃度にガスが広がりがやすい範囲
- 大きな噴石** 風下側で小石が飛んでくる予想範囲(8km)
- 空振** 空振による被害を受ける予想範囲(18km)
- 降下火砕物(降灰)** 風下側に火山灰が降下
- 火砕流と火砕サージ** 火砕流 火砕サージ 火口から半径4km以内(火砕サージはその外側にも広がる)
- 融雪型火山泥流** 約0分後 泥流が到達するまでの時間

融雪型火山泥流(詳細)

		床下浸水が想定される範囲	木造家屋の損壊と床上浸水が想定される範囲	木造家屋の半壊・全壊が想定される範囲
区分条件	家屋被害	なし	家屋損壊	家屋半壊・全壊(建物は泥流の力に耐えられない)
	浸水被害	床下浸水	床上浸水(家屋1階浸水)	家屋2階浸水
	歩行避難への影響	歩行可能	歩行困難	歩行困難
避難行動	泥流が到達する前	高台等高所または丈夫な建物の2階以上に避難する	高台等高所または丈夫な建物の2階以上に避難する	高台等高所に避難する
	泥流が到達してしまっている場合	高台等高所または丈夫な建物の2階以上に避難する	建物の2階以上に避難する(泥流が家突き破って家の中に入ってくる可能性があるため、泥流の反対側に避難する)	

融雪型火山泥流

- 噴火** 高温の岩塊や軽石が噴出
- 火砕流** 数百度の高温 時速100km 近い速度で流走
- 融雪型火山泥流** 雪がとけて土砂等と一緒に時速60km近い速度で流下

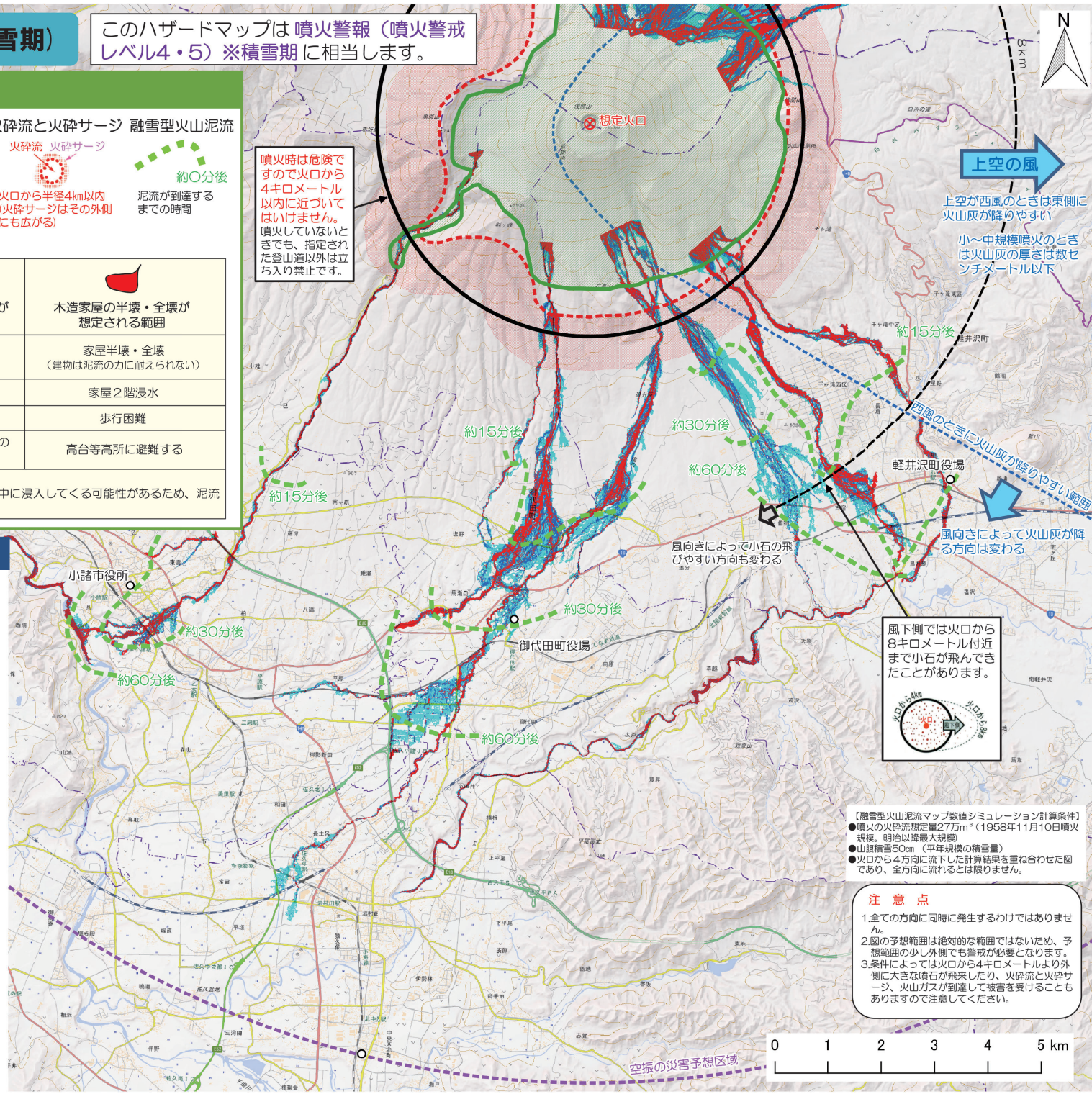
- ◆ 積雪期に火砕流が発生すると、その熱によって火口周辺の雪が解け、渓流沿いの土砂や樹木と一緒に泥水となって斜面を高速で流れ下ります。
- ◆ 速さは時速約60キロメートルにも達すると言われ、15分程度で別荘地や住宅地に到達する可能性があります。破壊力が大きく、広範囲に氾濫しやすいため大きな被害が発生します。

融雪型火山泥流からの避難に関する心得

- 沢筋や低地等危険度が大きい地域では、**早めに避難**する。(自らの判断に基づく自主避難)
- 危険箇所を通らず**谷から離れ**、近くの**高台等高所に避難**をする。
- 屋外に泥流が到達している場合又はすぐそばまで迫っている場合は、屋外には出す**建物の2階以上に避難**する。
- 近くに高台等高所がない場合は、泥流の力に耐えうる丈夫な**建物の高いところ(2階以上)に避難**する。



噴火時は危険ですので火口から4キロメートル以内に近づいてはいけません。噴火していないときでも、指定された登山道以外は立ち入り禁止です。



【融雪型火山泥流マップ数値シミュレーション計算条件】
● 噴火の火砕流想定量27万m³(1958年11月10日噴火規模。明治以降最大規模)
● 山腹積雪50cm(平年規模の積雪量)
● 火口から4方向に流下した計算結果を重ね合わせた図であり、全方向に流れるとは限りません。

- 注意点**
1. 全ての方向に同時に発生するわけではありません。
 2. 図の予想範囲は絶対的な範囲ではないため、予想範囲の少し外側でも警戒が必要となります。
 3. 条件によっては火口から4キロメートルより外側に大きな噴石が飛来したり、火砕流と火砕サージ、火山ガスが到達して被害を受けることもありますので注意してください。